



「未来志向」「ONE TEAM」で、JR産業に「安心」を取り戻そう！

2022年 3月31日

日本鉄道労働組合連合会

# JR西労組2022春闘交渉妥結

・2021年度の基準昇給額表に基づく基準昇給の完全実施

・夏季手当1.34ヵ月分＋一時金5万円

※6月30日支給、年末手当は再度交渉

※一時金の支払対象は社員のみ

・特急列車通勤に関する要件の緩和

・社員の生活支援となる融資制度の実施(口頭表明)

JR西労組中央闘争委員会は、3月31日の団体交渉で会社から上表のとおり、「ベースアップは実施しない」「夏季手当1.34ヵ月に一時金5万円を加算する」との回答を受けた。

回答にあたって会社は「2期連続の赤字を計上せざるを得ない厳しい状況ではあるが、組合員の日々の努力や協力に可能な限り早期に最大限報いるため、本日回答させて頂く。なお、期末手当については、本来年間で回答すべきところではあるが、先行きが不透明であることから、夏季のみの回答とさせて頂きたい」と述べた。

これに対し、中央闘争委員会は「今後も会社を支え、成長させるのは西労組の組合員であり、困難な時こそ会社は社員・組合員に寄り添う姿勢を見せなければならない。ベアの実施が困難であることは受け止めざるを得ないが、中長期的視点に立てば、賃金の底上げは必要である。さらには、これまで強く主張してきた地上職の待遇改善等について、原資がないことは理解するものの、喫緊の課題であり、引き続き議論していくことを要請する。また冬季手当についても年間臨給4.0ヵ月の要求に対して誠意ある回答を求める。今一度、労使が力を合わせ、会社の存続の危機を乗り越えていかなければならない」と主張した。

回答を受け、中央闘争委員会ならびに緊急地本代表者会議を開催、議論を重ねた。昨年同様、2021年度決算において巨額の赤字が見込まれる中、1.34ヵ月＋5万円の回答は、2021年度年末手当(1.25ヵ月＋5万円)から0.09ヵ月分上乘せされていること、そして、現下の会社を取り巻く経営環境を踏まえれば、要求額との乖離はあるもの、これ以上の要求前進は困難と判断し、妥結した。